

桂離宮周辺エリア

～下桂村・桂地蔵寺・桂川～

| | | | |
|--|----------|---|----------|
|  | 視点場（境内） |  | 特に着目する通り |
|  | 視点場（参道等） |  | 主な通り |

桂離宮

創建は江戸時代初期にさかのぼり、八条宮(桂宮)初代智仁親王が「瓜畠のかるき茶屋」や「下桂の茶屋」とよばれた別荘をつくったことにはじまる。智仁親王の死とともにこの別荘も荒廃したが、やがて二代智忠親王と前田家の息女との結婚を契機に整備がはじまり、順次増築が重ねられた。¹⁾

明治14年、桂宮家が断絶して後は宮内省の管轄となり、明治16年に桂離宮と命名された。²⁾



園林堂横の橋から笑意軒を見る

桂離宮内は、全体として高木に囲まれており周辺の建造物等はほとんど見えない。

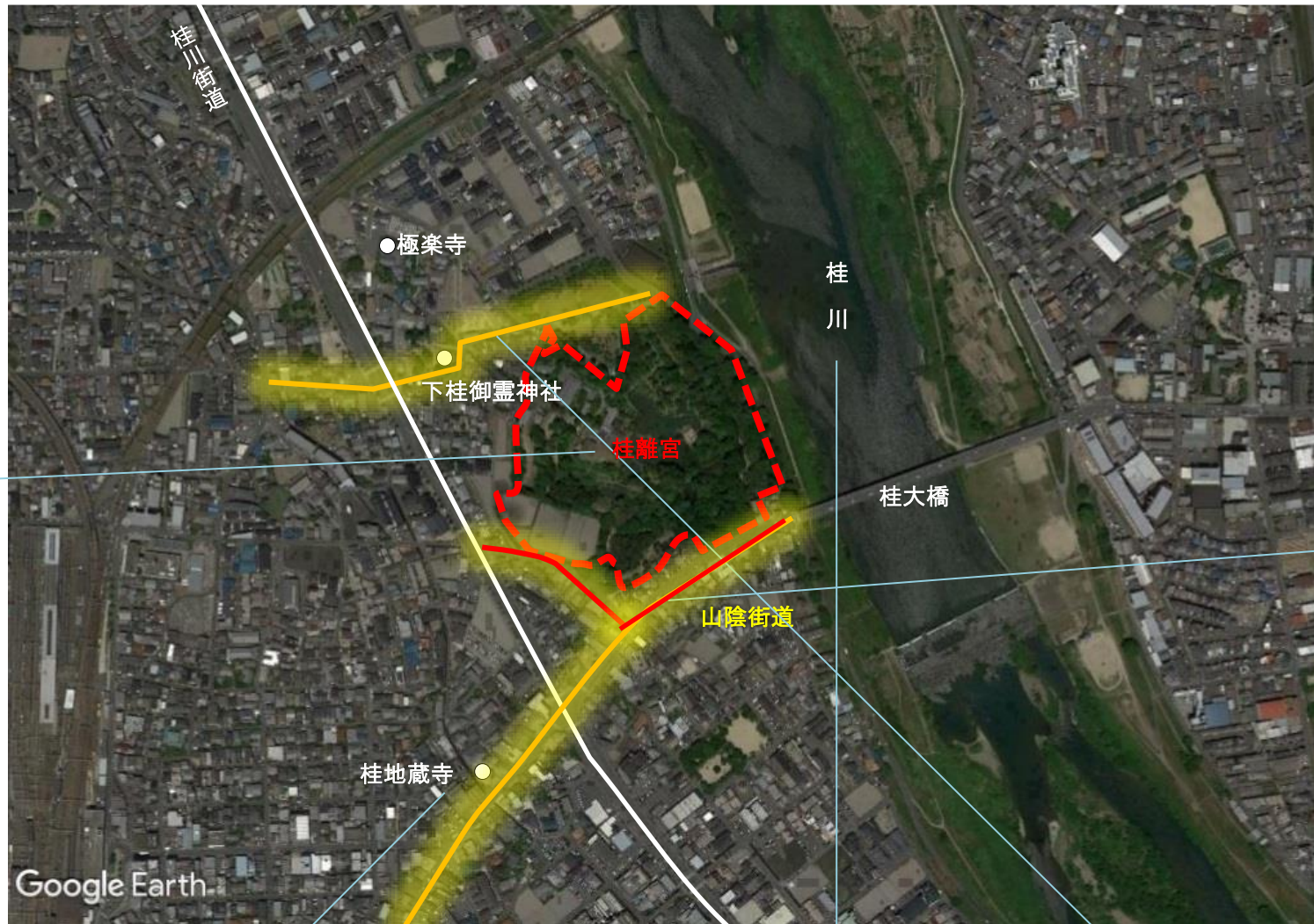


松琴亭横から古書院、月波楼を見る

エリア概要

- 桂は、古来、風光明媚の地として知られ、市中からあまり遠くもなく、舟遊・行楽に適していたことから、平安時代には貴紳の山荘地となった。桂離宮は、南側の山陰街道に面する街道集落と西側の旧下桂村に周囲を保護された格好で、永らく安定した環境を維持してきたが、近年は周辺部に市街化が進み、また土地区画整理事業が施行されている。

- 桂離宮周辺では、離宮の大きな森が、この地域の重要な景観資源となっている。また、西側の旧集落の建物敷地には、豊かな緑化が施されている。



山陰街道（下桂村）

近世のこのエリアは、すべて桂宮家領であった。桂川以西においては大村で、越瓜・飴・茶などが生産された。⁴⁾沿道沿いには、農家風のたたずまいを残した建物も多く見られ、桂離宮の緑と一体的な景観を形成している。



桂地蔵寺

中世を通じて多くの参詣客でにぎわい、近世にいたっても衰えることのなかった桂地蔵が位置している。³⁾



桂川

桂離宮周辺は、桂離宮の大きな森が、川幅の大きい桂川ののびやかな空間と一体となって、この地域の風景に特徴を与えている。



桂大橋と桂離宮

桂離宮北西

明治2年の絵図にも描かれる通りであり、桂離宮西側の下桂御霊神社及び極楽寺を中心とした古くからの集落は、低層戸建住宅と農地の残存が見られる。

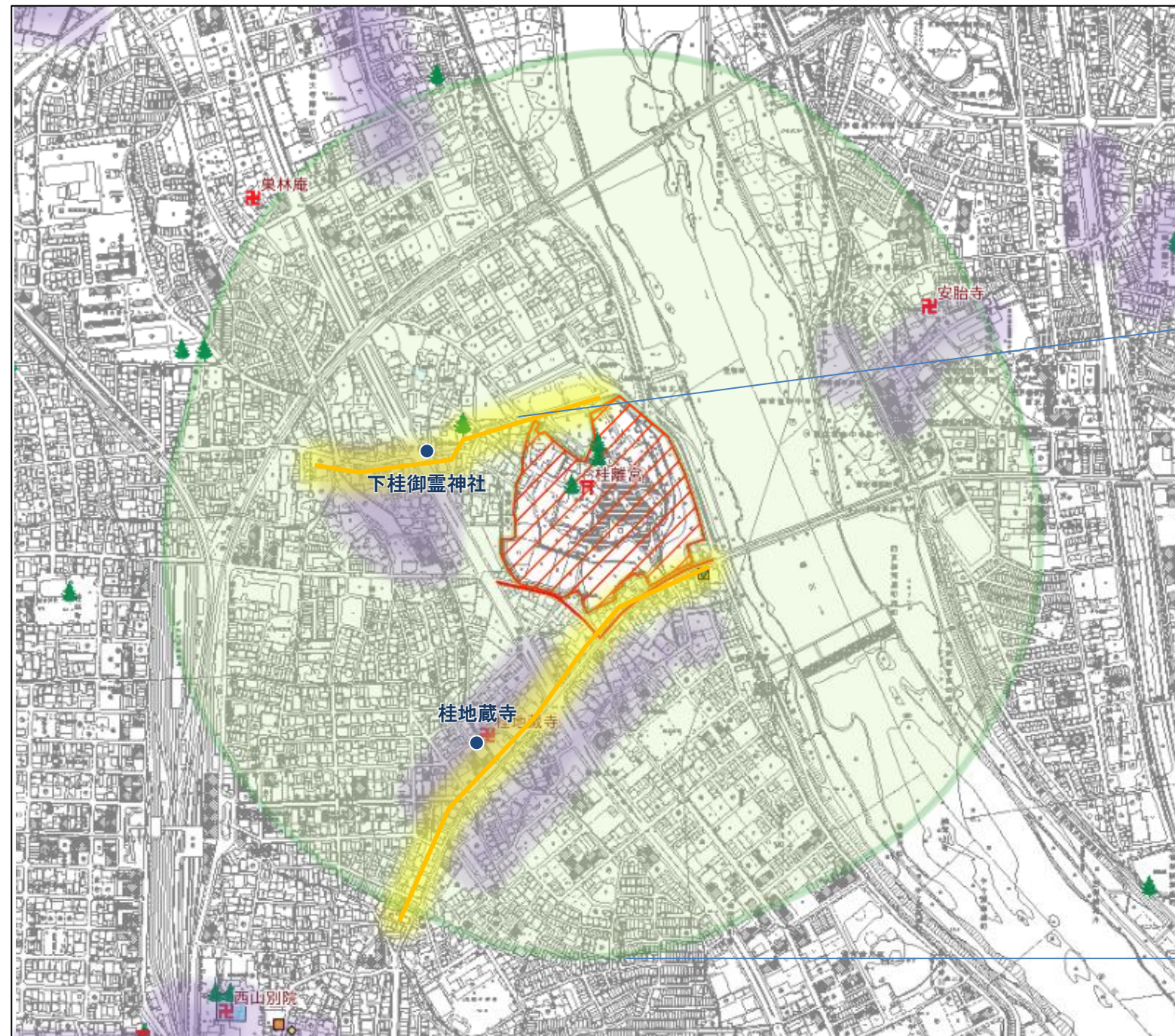
既存集落の町並み



下桂御霊神社



エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

特に着目する通り

明治25年以前から存在する市街地

界わい景観整備地区

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

国土地理院社寺データ等

※

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

桂離宮北西

明治2年の絵図にも描かれる道であり、市街化が早かった。
 神社が位置し、嘉永2年（1849）には下桂村の他1村が下桂御霊神社の神興を修復するなど、下桂村との関係が深い。
 御霊神社及び極楽寺を中心とした古くからの集落は、低層戸建住宅と農地の残存が見られる。



集落



下桂御霊神社

下桂村

近世のこのエリアは、すべて桂宮家領であった。明治初年における戸数は124戸、人口は606人。桂川以西においては大村で、越瓜・飴・茶などが生産された。⁵⁾
 昭和3年には新京阪電鉄（現阪急電鉄）が設置されたのを契機に、市街地化が急速にすすめられた。⁶⁾昭和9年から昭和23年にかけて、区画整理が行われている。
 また、中世を通じて多くの参詣客でにぎわい、近世にいたっても衰えることのなかった桂地蔵が位置している。⁷⁾

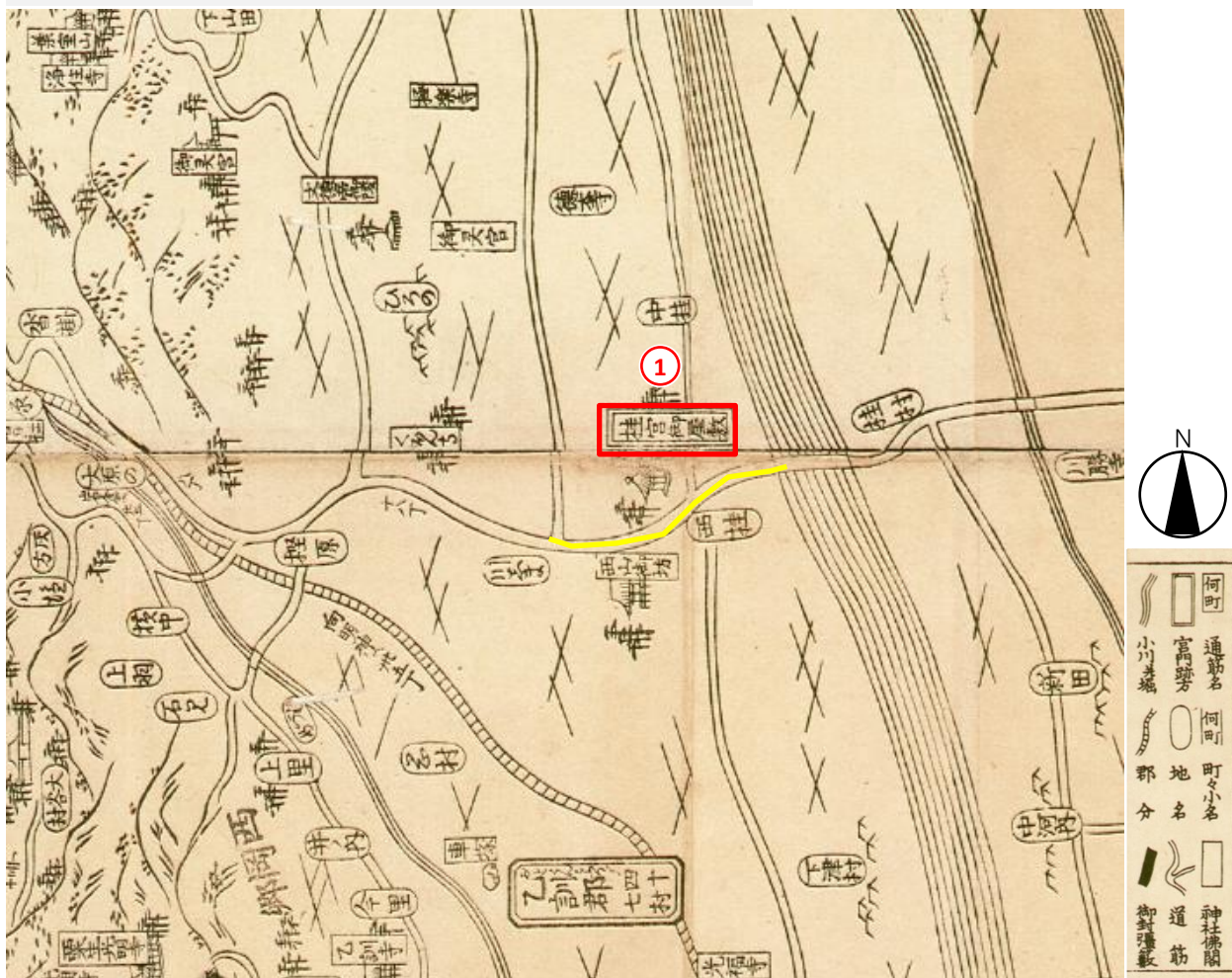


桂地蔵寺



エリアの土地利用の変遷

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



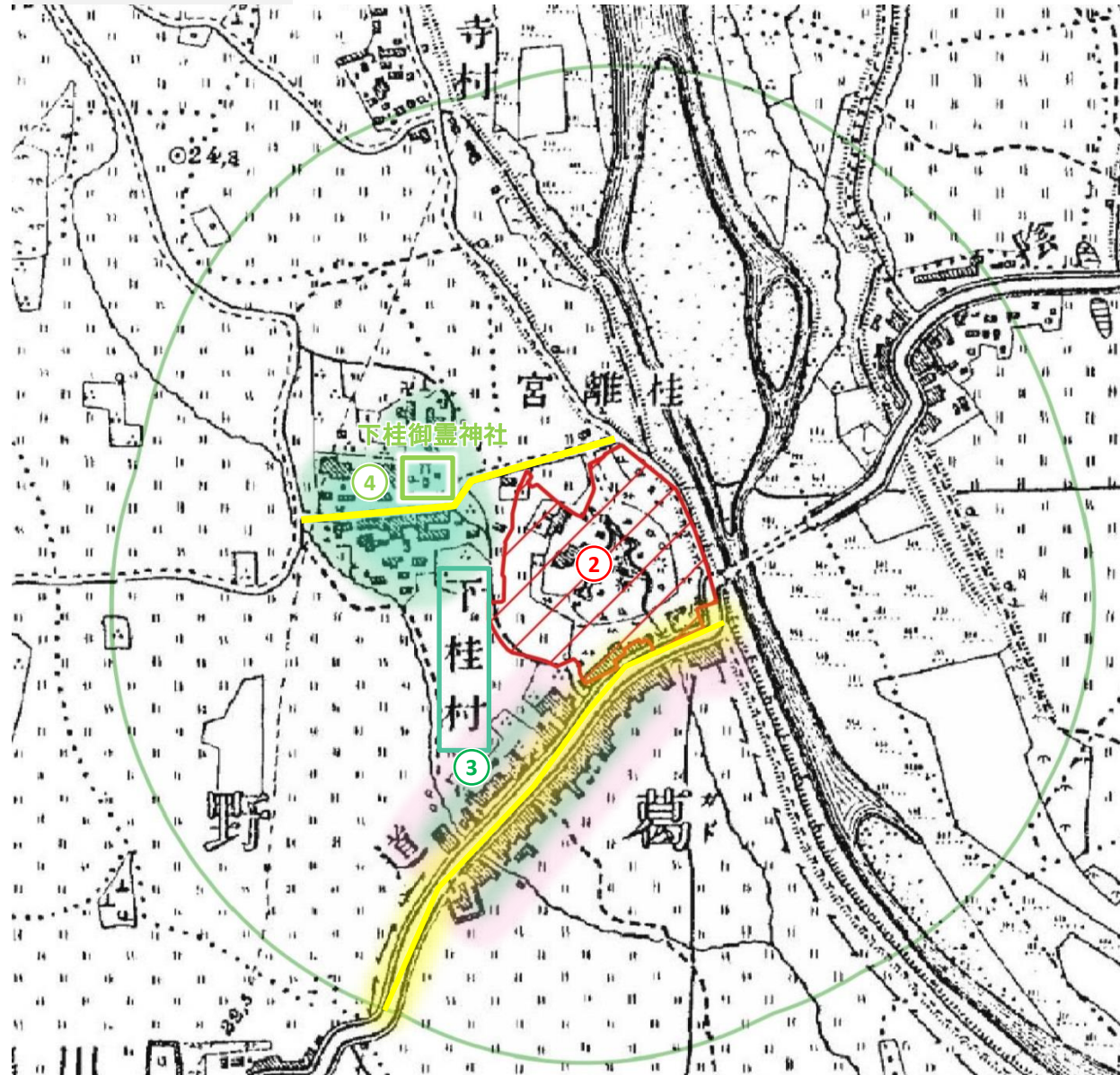
京町御絵図(明治2年)

このエリア一帯は、古くから「桂」と総称され、藤原道長の桂山荘をはじめ、公家たちの別業が営まれ、その様子は和歌や物語にも記された。京都から西国方面への出入口という交通の要衝であったため、平安初期から桂川には渡しが置かれた。⁸⁾

①桂宮御屋敷

創建は江戸時代初期にさかのぼり、八条宮（桂宮）初代智仁親王が「瓜畠のかろき茶屋」とか「下桂の茶屋」とよばれた別荘をつくったことにはじまる。智仁親王の死とともにこの別荘も荒廃したが、やがて二代智忠親王と前田家の息女との結婚を契機に整備がはじまり、順次増築が重ねられた。⁹⁾

明治25年(1892年)



 視点場（境内）
 特に着目する通り
 近景デザイン保全区域

資料：仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

②桂離宮

明治14年、桂宮家が断絶して後は宮内省の管轄となり、明治16年に桂離宮と命名された。¹¹⁾

③下桂村

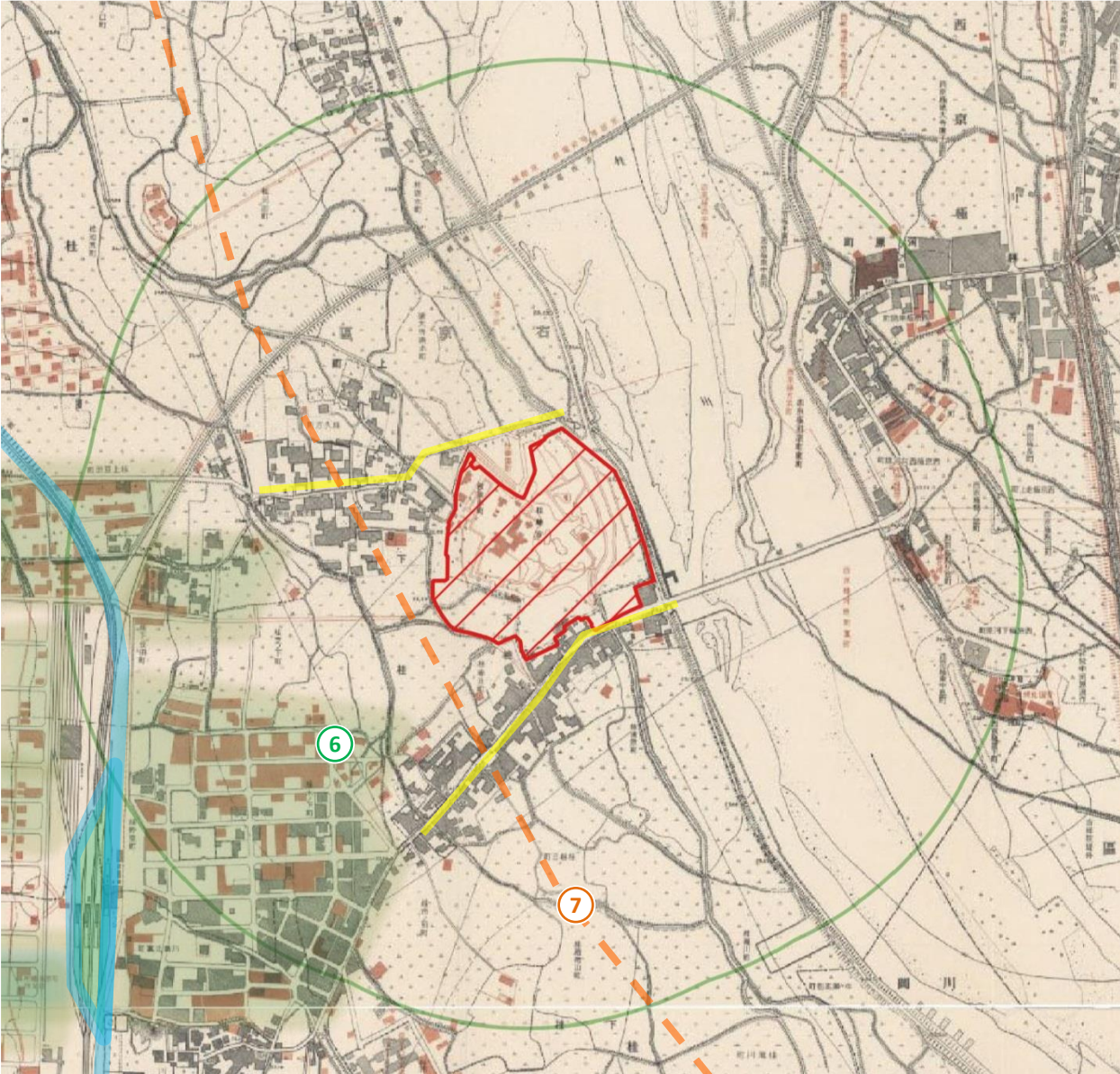
近世のこのエリアは、すべて桂宮家領であった。明治初年における戸数は124戸、人口は606人。桂川以西においては大村で、越瓜・飴・茶などが生産された。¹²⁾

④下桂御霊神社

嘉永2年（1849）には下桂村の他1村が神興を修復している。¹³⁾

エリアの土地利用の変遷

昭和28年(1953年)



昭和10年都市計画図の内容
昭和28年の修正測図

資料：京都市都市計画基本図(昭和28年)
(京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

⑥下桂村

昭和3年には新京阪電鉄（現阪急電鉄）が設置されたのを契機に、市街地化が急速にすすんだ。¹⁴⁾ 昭和9年から昭和23年にかけて、区画整理が行われている。

⑦桂川街道

昭和28年以降、桂川街道が開通し、市街化はさらにすすんだ。

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

桂離宮の歴史的資産と守っていききたい眺め

桂離宮

桂川の中流域西岸、西京区桂御園にある離宮。江戸初期、八条宮家（桂宮家）が別荘として造営。敷地は約21、000坪。明治16年宮内省に移管し離宮と称す。この地はかつて藤原道長が経営した桂山荘の故地で、藤原師実・忠通・兼経なども別荘を構え、王朝文学の舞台ともなった。

桂離宮は、八条宮家初代智仁親王と二代智忠親王により、約50年、三次にわたる造営と改修を経て成立。第一次の造営は元和元年（1615）頃、智仁親王がこの地に「瓜畠のかろき茶屋」（智仁親王書状）と称する簡素な建物を営んだのが創始。これが古書院の原形をなし、寛永元年（1624）頃、作庭も含めて入り王の完成をみた。同年ここを訪れた相国寺の94世昕叔頭皞は、庭に山を築き、池を掘り、その池には船が浮かび、亭の上からは四方の山がみえ、天下の絶景であったと「鹿苑日録」に記す。同6年智仁親王の死によって急速に荒廃したが、同18年智忠親王が第二次の造営を開始。従来の古書院に接続して中書院を増築し、庭園には5カ所の茶屋を設置。その後、明暦4年（1658）と寛文3年（1663）の後水尾上皇の行幸に際し、第三次造営を行う。楽器の間・新御殿の建設とともに、庭園も大幅に整備。第二次造営の際の5カ所の茶屋を廃し、松琴亭・月波楼・賞花亭・園林堂を設営。


現在、桂川の流れを引いた大池の西に、北より古書院・中書院・楽器の間・新御殿が雁行して建つ。苑池には三つの中島が浮かび、池畔には「源氏物語」の世界を幾重にも織り込む。苑路がそれを連ねてめぐり、大池の周辺に点在する月波楼・松琴亭・笑意軒、さらには中島山上の峠の茶屋賞花亭へと導く。また、この中島には持仏堂の園林堂が建つ。離宮周囲の竹生垣は桂垣・桂穂垣と呼ばれる。桂離宮における建築と庭園の融合調和は国際的に有名。昭和51年から57年にかけて、解体大修理が行われた。¹⁵⁾

文化財

※皇室財産のため境内内に文化財は存在せず

樹木


エノキ




西京B04

[区民の誇りの木]

江戸時代初期に公家の別邸として造営された庭園で、書院や茶屋を配した庭園は、日本庭園の最高傑作として国際的にも知られています。このエノキは桂離宮の入口にあり、調和のとれた樹形が人々を魅了しています。




ムクノキ




西京B05

[区民の誇りの木]

桂川沿いの竹の垣根は「桂垣」と呼ばれます。このムクノキは桂垣とよく調和しています。




エノキ

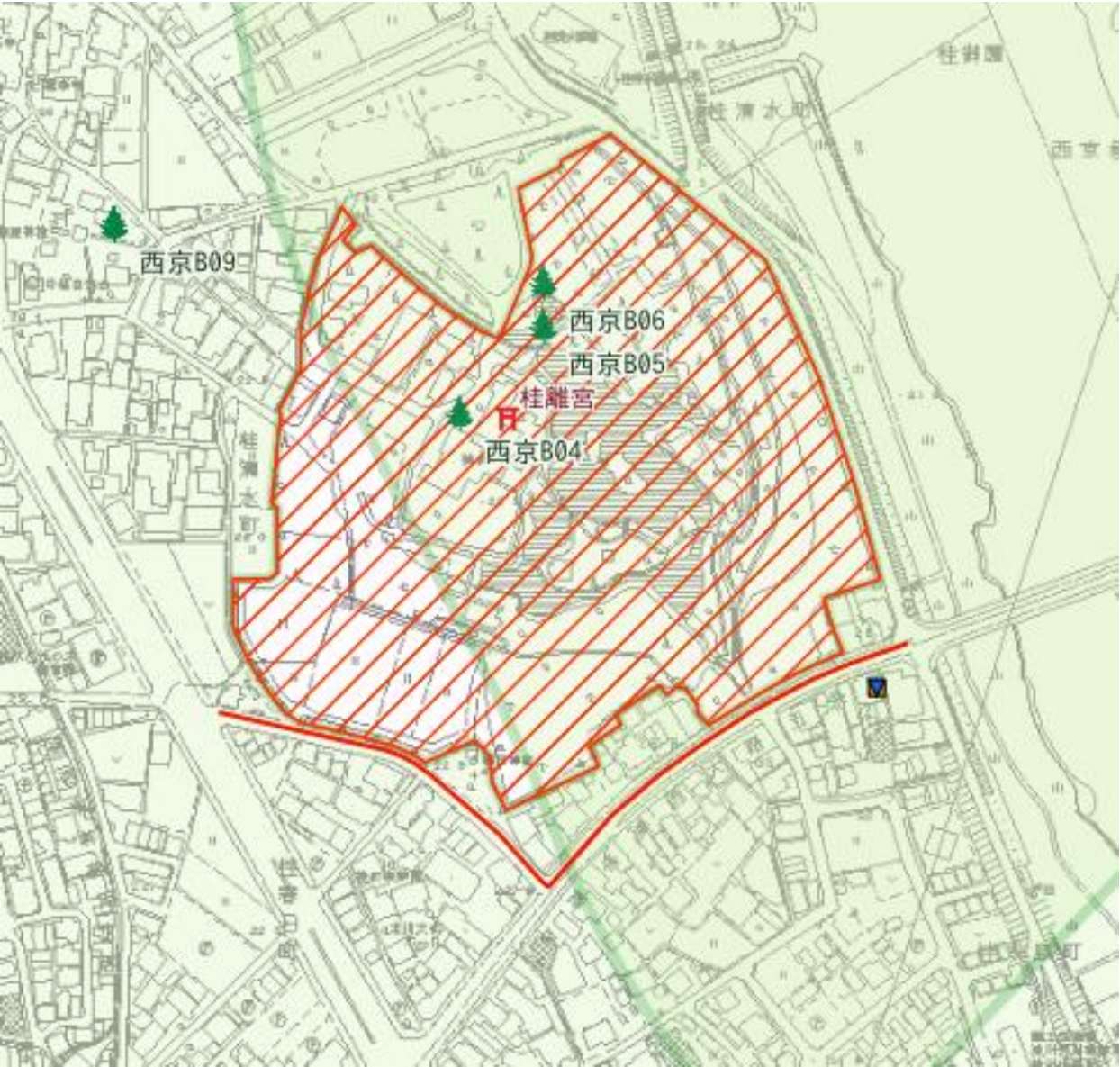


西京B06

[区民の誇りの木]


竹垣のなかに、幹周りが3mを越えるエノキの大木がそびえ立っています。








※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。


【凡例】


 視点場（境内）


 視点場（参道等）


 近景デザイン保全区域


 建造物・庭園


 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物


 歴史的意匠建造物


 界わい景観建造物


 京を彩る建物や庭園


 文化財（建築物）

 文化財（史跡・名称）

 国土地理院社寺データ等

 樹木

 天然記念物

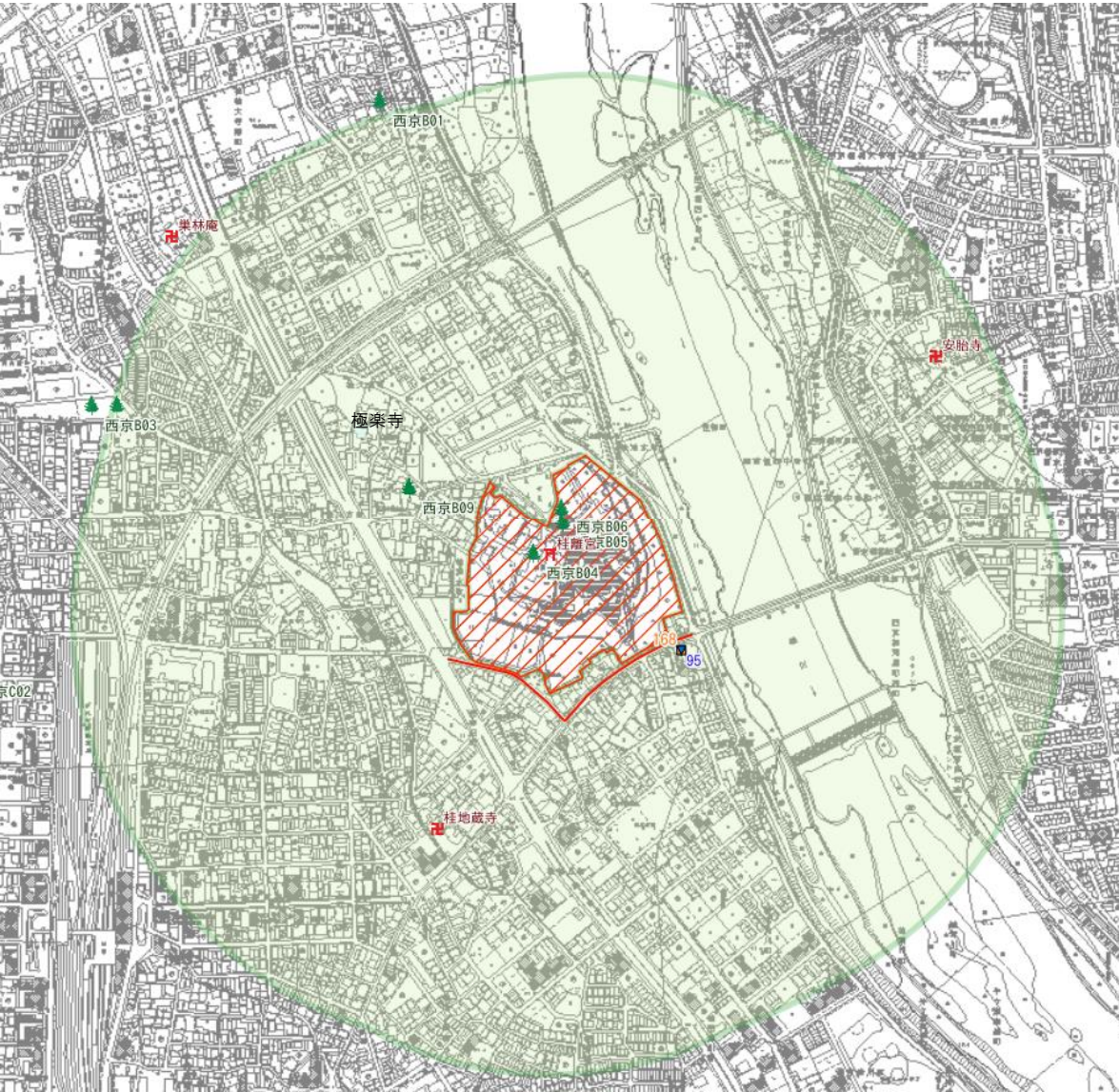
 保存樹・区民の誇りの木

※

国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

5

桂離宮周辺の歴史的資産



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等 ※

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

桂離宮周辺のその他の歴史的資産

■ 景観上重要な建築物、庭園等

中村軒

〔景観重要建造物、京都を彩る建物や庭園〕

（建物概要）

桂大橋の西詰め、桂離宮の南側に位置し、明治期より和菓子屋として親しまれ、山陰街道沿いの商家の佇まいを継承する建造物である。

（京都を彩る建物や庭園 推薦理由(抜粋)）

創業明治16年の老舗饅頭屋である。約30年前に住居部分を茶店にする等、時代の変化に準じて建物に手を加えられているが、むくりのついた大屋根に煙出し、虫籠窓等が残っており、店先の雰囲気から当時の往来客の様子を想像させられる。

中村軒は、明治16年（1883）の創業から5代続く和菓子屋である。敷地は、桂大橋西詰の八条通り南側に北面して建っており、桂大橋架け替えの際、昭和4年（1929）に曳家されたと伝わる。主屋は明治37年（1904）の建築で、オモテをミセノマとし、奥に住居、厨子2階に寝室を構えた町家建築である。主屋は間口5間、奥行き6間半で、切妻造り、平入棧瓦葺の厨子2階建てで、大屋根には煙出しの腰屋根を持ち、北面には虫籠窓を持つ。ミセノマは土間で広く開放し、土間の正面奥に座敷が2間と平屋建ての離れが続いている。座敷に続くナカニワは、春日灯籠を中心として松、紅葉、沓脱石や手水鉢等がバランスよく配されている。京郊農村地域の町家として貴重な建物である。



▼95 ■168

■ 桂地蔵寺



西京区桂春日町にある浄土宗地蔵寺の俗称。本尊地蔵菩薩。六地蔵巡りの一。桂大納言源経信の河原堂山荘跡に堂宇を建立、薬師如来を安置したのに始まり、のち地蔵尊を祀ったという。この地蔵は小野篁が一木から彫った六地蔵の一で、平清盛が京に通じる六街道に分祀し都の安泰を祈ったとも伝え、毎年8月22日・23日の六地蔵巡りには多くの参詣者で賑わう。¹⁶⁾

■ 文化財(建築物)、史跡・名勝 等 〔市指定名勝〕



極楽寺 庭園

■ 樹木

ムクロジ： 〔区民の誇りの木〕

桂下御霊神社

西京B07

橘逸勢（たちばなのはやなり）をまつる神社です。境内中央にあるムクロジは、樹齢400年以上と推定されています。周囲を竹垣で囲い、大切にされています。



ナギ： 〔区民の誇りの木〕

桂下御霊神社

西京B08

手水舎の脇に育っています。ナギの葉は幅広い楕円形で、光沢があることが特徴です。



イチヨウ： 〔区民の誇りの木〕

桂下御霊神社

西京B09

自治会館は、橘逸勢の娘をまつた尼寺の跡で、イチヨウが寄り添うように立っています。



景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

嵯峨嵐山風致地区

【概況】

当地区は、山越・宇多野地域、梅ヶ畑地域、車折神社周辺、北嵯峨、嵯峨野、清滝、高雄、嵐山及び嵐山南地域、松尾山際地域、梅宮大社の参道、桂等から構成されている。
 山越・宇多野及び梅ヶ畑地域の宅地は、敷地規模が大きく、緑化が行き届いており、車折神社周辺は、神社のこんもりとした樹林と周辺宅地の道路側緑化が見られる。また、北嵯峨・嵯峨野地域では、遍照寺山のなだらかな山景、その周りに平坦に広がる農地、さらに、豊かな敷地内緑化等を合わせて、質・量共に優れた緑が見られる。清滝及び高山寺・高雄については、四季を彩る木々や林業による美しい植林に代表されるように、森林による自然景観が維持され、宅地側についても周辺の恵まれた自然と一体となって深山の趣を感じさせる魅力ある緑豊かな景観を形成している。松尾については、豊かな緑が保全されており、西芳寺南側の山ろくの市街化区域の宅地も、後背地の山地と一体的に緑を主体とする自然景観を保持している。桂離宮周辺については、離宮の大きな森が、この地域の重要な景観資源となり、西側の旧集落の建物敷地には、豊かな緑化が施されている。

【良好な景観の形成に関する方針】

●桂離宮の借景空間の確保、旧街道としての趣

桂離宮周辺は、桂離宮の大きな森が、川幅の大きい桂川ののびやかな空間と一体となって、この地域の風景に特徴を与えているため、この風致の維持を図る。
 また、山陰街道沿い（八条通）は、かつての街道の面影をわずかながら残した沿道型の景観を形成している。特に離宮周辺は、農家風のたたずまいを残した建物も多いため、この伝統的な和風の保全や、高さ規制や和風デザイン等による離宮庭園からの借景の確保を図るとともに、山陰街道沿いの建物については、旧街道の趣との調和に配慮する。



1) 桂離宮
（洲浜から天橋立越しに古書院を見る）



2) 桂垣



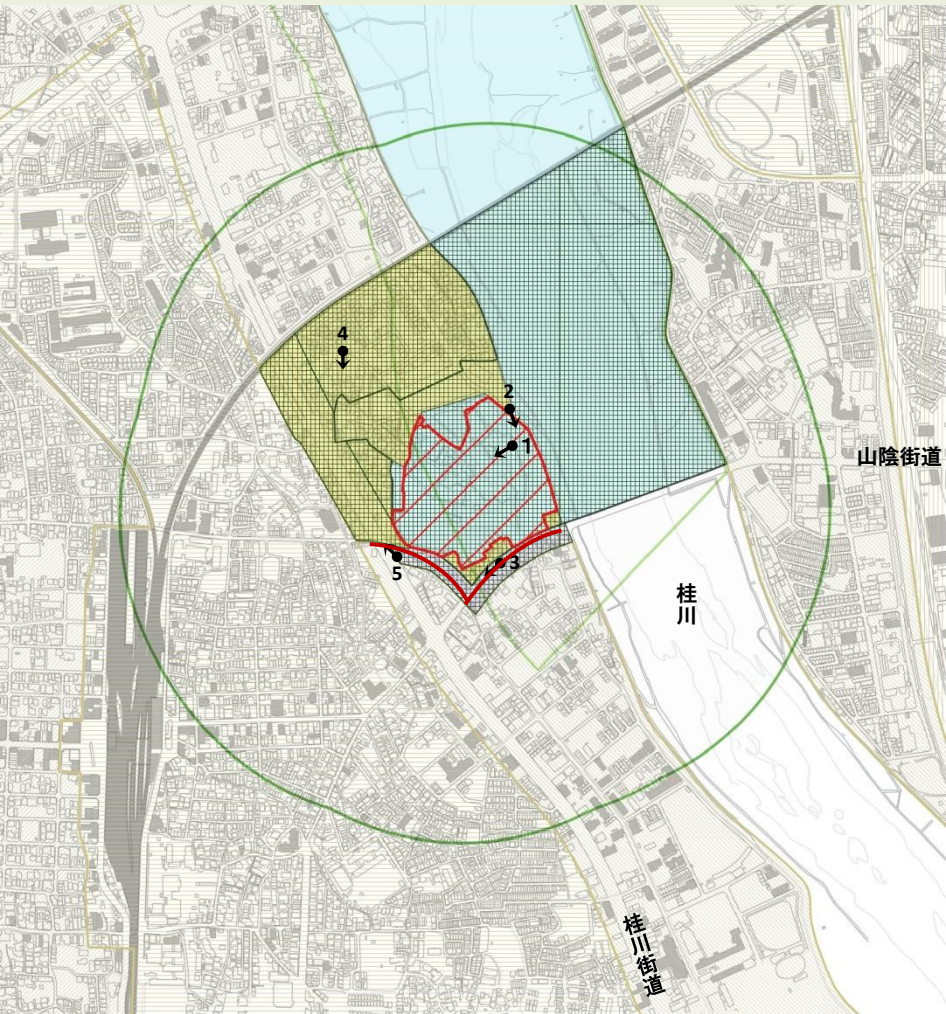
3) 周辺の町並み
（山陰街道）



4) 周辺の町並み



5) 周辺の町並み
（桂街道）



| 【凡例】 | |
|---------------|-----------------------|
| 眺望景観保全区域 | 景観地区 |
| 視点場（境内） | 山ろく型美観地区 |
| 視点場（参道等） | 山並み背景型美観地区 |
| 近景デザイン保全区域 | 岸辺型美観地区 |
| 風致地区 | 旧市街地型美観地区 |
| 風致地区第1種地域 | 歴史遺産型美観地区 一般地区 |
| 風致地区第2種地域 | 歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区 |
| 風致地区第3種地域 | 歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区 |
| 風致地区第4種地域 | 重要界わい景観整備地域 |
| 風致地区第5種地域 | 沿道型美観地区 |
| 風致特別修景地区 | 市街地型美観形成地区 |
| 建造物修景地区 | 沿道型美観形成地区 |
| 山ろく型建造物修景地区 | |
| 山並み背景型建造物修景地区 | |
| 岸辺型建造物修景地区 | |
| 町並み型建造物修景地区 | |
| その他 | |
| 伝統的建造物群保存地区 | |
| 歴史的風土保存地区 | |
| 歴史的風土特別保存区域 | |

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

(資料)

1) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第15巻 西京区. 平凡社. 1994. p.210
2) 同上、 p.210
3) 同上、 p.209
4) 同上、 p.210
5) 同上、 p.210
6) 同上、 p.300
7) 同上、 p.209
8) 同上、 p.208
9) 同上、 p.210
10) 同上、 p.209
11) 同上、 p.210
12) 同上、 p.210
13) 同上、 p.210
14) 同上、 p.300